



EL SALVADOR

学校名：専修大学松戸高等学校

氏名：泉 貴久

[担当教科：地理歴史]

- 実践教科等：地理 B
- 時間数：19時間
- 対象生徒：高校3年生
- 対象人数：38人

[1]単元名

知られざる国・エルサルバドル

[2]単元の目的/目標(背景を含む)

- ・エルサルバドルを事例に、国家規模の地域を総合的に考察し、理解する能力を身につける。
- ・エルサルバドルの学習を通じて、異文化理解・多文化共生の態度を身につける。
- ・作業、討論、発表などの参加型・体験型学習を通じて、思考力・判断力・表現力を身につける。
- ・エルサルバドルと日本との関係を通じて、世界と自分とのつながりに気づくとともに、自らの生き方・あり方を考えるきっかけをつくる。

[3]単元の構成

時限	本時のねらい、テーマ	学習活動・学習内容	使用教材	評価の観点と方法
1	【エルサルバドルの存在とその世界的位置づけ】 ・地図作業を通じ、中米の範囲と属する国々、地域区分、エルサルバドルの地理的位置を確認する。 ・統計資料の分析を通じて、エルサルバドルの特徴について理解する。 ・統計資料の分析を通じて、中米他国や日本との関わりから理解する。	・北中南米の範囲を手描きの地図でB4版白紙に示す。 ・地図帳を参照しながら中南米に属する国々や地域区分を白地図に記入し、エルサルバドルの位置を確認する。 ・エルサルバドルの国旗・国章の意味を知る。 ・統計資料の分析を通じてエルサルバドルの特徴、中米他国や日本との共通点・相違点について考察する。	・B4版白紙 ・白地図 ・地図帳 ・エルサルバドル国旗 ・文献資料 ・統計資料 ・ワークシート	・白地図作業への取り組み ・ワークシートの記述内容
2、3	【写真で読み取るエルサルバドル社会】 ・写真の読み取りと議論を通じて、エルサルバドル社会の現状について様々な側面から理解する。	・エルサルバドルのイメージを自由に発言する。 ・グループごとに2枚の写真の読み取りを行い、模造紙にまとめる。 ・まとめたことを踏まえ、写真に相応しいキャプションを付け、その根拠を発表する。 ・上記の活動を通じ、エルサルバドル社会の現状を理解し、同国へのイメージを広げる。	・写真 ・模造紙 ・マジックペン ・ワークシート	・発言の内容 ・グループ内での議論の様子 ・プレゼンテーション内容とスキルの程度 ・他グループのプレゼンを聴く態度 ・ワークシートの記述内容
4～6	【エルサルバドルの概要について】 ・ポスター作成を通じて、エルサルバドルの概要について様々な側面から理解する。	・グループごとに文献資料の読み取りを行い、それに基づいて議論する。 ・上記の活動を踏まえ、グループごとに、エルサルバドルの概要についてポスター形式で模造紙にまとめ、発表する。	・文献資料 ・模造紙 ・マジックペン ・ワークシート	・グループ内での作業の様子 ・ポスターの出来ばえ ・プレゼンテーション内容とスキルの程度 ・他グループのプレゼンを聴く態度 ・ワークシートの記述内容
7	【エルサルバドルと日本との関係】 ・エルサルバドルと日本と	・藍染のショールを切り口に日本とエルサルバドルとの接点を見いだす。	・藍染のショール ・写真 ・文献資料	・作業への取り組み ・ワークシートの

	<p>の関係について、歴史的背景を踏まえながら、貿易・経済・援助の側面を中心に理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ODA、貿易、企業活動を軸にした日本とエルサルバドルとの関係について示された統計を分析し、その歴史的背景について考察する。 ・経済的側面以外での両国間の関係について示された文献資料を読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・統計資料 ・ワークシート 	<p>記述内容</p>
8 ～ 11	<p>【エルサルバドルの歴史の一断面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・映像を通じて、エルサルバドル内戦の実情とそれが発生した社会的背景について、当時の国内の社会体制や国際社会との関わりから理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・映画「サルバドル—遥かなる日々—」を、メモをとりながら視聴する。 ・映画の内容を振り返りながら、エルサルバドル内戦の特徴について考える。 ・エルサルバドル内戦発生の社会的背景について、当時の国内の社会体制や国際社会との関わりからとらえるために、文献資料を読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・DVD ・文献資料 ・ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ・映画の鑑賞態度 ・作業への取り組み ・ワークシートの記述内容
12 ～ 14	<p>【エルサルバドルが抱える諸課題と解決策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真の読み取りを通じて、エルサルバドル社会の抱える課題に気づく。 ・Web Map の作成を通じて、諸課題どうしの因果関係を見出す。 ・エルサルバドル社会の抱える課題を踏まえ、解決へ向けての手立てについて考えるきっかけを得る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに 2 枚の写真を読み取り、エルサルバドルが抱える課題を発見する。 ・グループごとに割り振られた課題をもとに Web Map を模造紙に作成する。 ・完成した Web Map から見出されたことをグループごとに発表する。 ・グループごとに課題解決への手立てについて考え、それを模造紙にまとめ、発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真 ・教科書 ・模造紙 ・マジックペン ・ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ内での作業の様子 ・ポスターの出来ばえ ・プレゼンテーション内容とスキルの程度 ・他グループのプレゼンを聴く態度 ・ワークシートの記述内容
15	<p>【課題解決へ向けての取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事の読み取りやビデオの視聴を通じて、エルサルバドルの抱える課題の解決へ向けた青年海外協力隊の取り組みの一端について理解する。 ・青年海外協力隊の取り組みへの理解を通じて、自己の生き方・あり方について考えるきっかけを得る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・エルサルバドルで活動する青年海外協力隊員・シニアボランティアの日本人 5 人の取り組みについて紹介している新聞記事を読む。 ・エルサルバドルで活動する隊員たちのインタビューの様子をとらえたビデオを、メモをとりながら視聴する。 ・新聞記事やビデオの内容を振り返り、協力隊員の途上国支援にかける思いや願いについて共感する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事 ・ビデオ ・ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ・作業への取り組み ・ビデオの鑑賞態度 ・ワークシートの記述内容
16 ～ 18	<p>【今後の国づくりを考える】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国づくりプランの策定を通じて、エルサルバドルのあるべき将来像について様々な角度から考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに割り振られた 7 つの課題を踏まえ、エルサルバドルの将来像に相応しいキーワードを考える。 ・キーワードに基づき、グループごとにエルサルバドルのあるべき将来像について議論する。 ・グループごとにあるべき将来像実現へ向けての具体的な国づくりプランを模造紙に作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・模造紙 ・マジックペン ・ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ内での作業の様子 ・ポスターの出来ばえ ・プレゼンテーション内容とスキルの程度 ・他グループのプレゼンを聴く態度 ・ワークシートの記述内容

		・完成したプランをグループごとに発表する。		
19	【エルサルバドルと私たちとの今後の関係】 ・これまでの学習を踏まえ、エルサルバドルと日本に住む私たちとの今後の望ましい関係について、自己の見解を示す。	・エルサルバドルと私たちとの今後の望ましい関係について、ワークシートに自己の見解をまとめる。 ・個々人がまとめたことをクラス全体で共有するために発表する。	・ワークシート	・発表の内容 ・ワークシートの記述内容

【4】授業の詳細

ココがポイント！

授業づくりにあたって心掛けたことは、①教師の現地での体験をリアルに伝えるための自主編成教材の活用、②生徒の主体的な学びを喚起する発問の設定、③知識を基盤に思考力・判断力・表現力を重視した学習プロセスの重視、④生徒間の協働意識・課題への当事者意識を高めるための参加型学習の採用、⑤毎時間の学習目標の達成を検証するための振り返りの重視、の5点である。

このような心掛けによって、生徒たち自身は自発的かつ意欲的に学習に取り組み、活発な授業展開が可能になった。それとともに、エルサルバドルへの興味・関心を高め、自分たちにとって身近な国としてとらえることができるようになっていった。

1 時限目：【エルサルバドルの存在とその世界的位置づけ】→個別学習

まずは、生徒たちの北中南米への認識がどの程度なのかを知るために、地図帳を見ずにフリーハンドで地図を描かせた。その際、大陸の輪郭のみならず、国名等をできる限り記入させた。10分後、生徒たちどうしで手描き地図を見せ合い、意見交換していく中で、自分たちの中南米諸国への認識が北米と比較していかに希薄なのかを彼ら自身が気づいていった。

次に、地図帳で位置を確認しながら中南米に属する国々を白地図に記入させた。また、同地域の地域区分について「民族的・文化的相違」「歴史的背景」「経済的結びつき」という観点から「メキシコ」「カリブ」「中央アメリカ」の3地域に区分させ、エルサルバドルが「中央アメリカ」に属することを確認させた。

その上で、エルサルバドルの国旗（青色が空を、白色が平和と協調を意味）・国章（スペイン語で「中米のエルサルバドル」の文字と中米連合5か国の山と旗が描かれている）の意味について考えさせることで、同国と中央連合他国（グアテマラ、ホンジュラス、ニカラグア、コスタリカ）との関係の強さについて気づかせた。最後に、統計資料をもとに社会指標（一人当たり国民所得、ジニ係数、人間開発指数等）について中米他国や日本と比較させることで、同国の特徴について数値的側面から理解させた。

生徒の感想（一部を抜粋）

☆日本とエルサルバドルを比較してみると、意外な点が多い。様々な点において日本の方が優れているというイメージだったが、出生率・死亡率から日本の少子高齢化が進行しているのがわかる。エルサルバドルの携帯電話の加入率が日本を上回っており、情報技術も発展していることに驚いた。

★エルサルバドルがどんな国なのか知らなかったの、統計を比較することで、日本と比べてどんな国なのかということが数値的な面からイメージできた。やはり日本よりエルサルバドルはあまり豊かな国ではないと思った。

2・3 時限目：【写真で読み取るエルサルバドル社会】→グループ学習

写真の読み取りと議論を通じて、この国の社会の現状や抱える課題について様々な側面から気づかせていく学習を進めていった。具体的には、各グループに配布した異なる2枚の写真を読み取らせ、それをもとに写真に共通するキャプションを付けさせ、その根拠を発表させることでグループごとの意見を全体に共有していった。作業の際、全ての写真（7グループで合計14枚）をクラス全員で共有するために、一定時間が経過したら、グループごと席を移動し、作業を行い、時間経過後にそれを繰り返していくローテーション方式を取り入れた。授業の様子は以下の写真に示す通りである。



生徒の感想(一部を抜粋)

☆エルサルバドルと日本は真逆のイメージがあったが、意外と街中に日本との共通点、類似点があると思った。逆にエルサルバドルの治安の悪さが表れているような写真もあった。様々な人の視点で見ると、多くの意見があるとわかった。

★2枚の写真をクラス全体がローテーション方式で見て回って感想を書き合うという授業が今までなかったから、とても面白かった。グループ内だけでも様々な意見が出るのに、クラス全員ともなると、考えもしないような感想があっぴょくりした。エルサルバドルの印象が変わった。

4～6 時間目:【エルサルバドルの概要について】→グループ学習

以下の写真に示すように、エルサルバドルの概要について、こちらで用意した文献資料をもとに、「自然環境」「文化・宗教・民族」「歴史」「産業・経済」「政治体制」「外交・貿易」「日本との共通点」の7つのテーマに分かれ、グループごとにポスターを作成させた。ここでは、文献を適切に読み取り、それを踏まえて討論を行い、結論、発表へと導く探究型のプロセスを重視した。そのようなプロセスを経て、生徒たちは、この国を一面的なステレオタイプではないトータルにとらえていく視点を身につけていった。



生徒の感想(一部を抜粋)

☆エルサルバドルは貧しい国なのかと勝手に思っていたけど、日本の自動車に乗っている人もいたりして、日本との共通点も意外と多かった。世界には自分の知らない国がたくさんあって、いろいろなことが起きていると思うと、何だか不思議だった。

★資料を読んで、エルサルバドルのまた違う一面を知ることができた。主な産品はコーヒーということが日本で私たちが飲んでる身近なものだったから驚いた。政治も予想していたより乱れていなかったのも、意外だった。今回は初めて班ごとに違うテーマについて調べ、興味を持って発表を聴けた。

7 時間目:【エルサルバドルと日本との関係】→個別学習

まずは、藍染の綿製ショールを提示しながら、①原料の綿花がエルサルバドルの特産品であること、②同国に日系の縫製工場が数社立地していること、③両国が古くから藍染という共通の文化を持っていること、④日本の技術援助で藍染文化が復活しつつあることなどを取り上げることで、両国間の関係の深さについて気づかせた。次に、「ODA」「貿易」「投資」「人的・文化的交流」を軸に統計資料を分析させたり、文献資料を読解させたりすることで、現在も続く両国間の関係について、理解を深めさせた。

生徒の感想(一部を抜粋)

☆日本が戦後すぐにエルサルバドルに企業進出していたことに驚いた。綿製品は中国から輸入しているイメージしかなかったが、エルサルバドルからも輸入していて意外に関わりがあると感じた。

★日本人が知らない国だが、実はいろいろなつながりがあり、本当はこのことを日本人は知らなければいけないことだと思う。もっといろいろな学校の授業でエルサルバドルについて学ぶべきだと思う。

8～11 時間目:【エルサルバドルの歴史の一断面】→個別学習

1970年代後半から80年代後半にかけて約10年間続いたエルサルバドル内戦は、同国の歴史を語る上で欠かすことができない。同国は内戦の爪痕が今でも各地に残っており、治安も完全には回復していない。ここでは、エルサルバドル内戦の実情とそれが発生した社会的背景について理解を深めるべく「サルバドル—遥かなる日々—」(オリバー・ストーン監督、1986年アメリカ)を3時間視聴させた。

映画視聴後の1時間の授業では、生徒たちにその内容を振り返らせるとともに、内戦を引き起こす背景となった当時の国内外の情勢について文献資料を読み取らせていった。生徒たちは、文献の読み取りを通じて、①エルサルバドルの社会体制が「14家族」と呼ばれる少数の富裕層による経済支配とそれを支持する右派政権による独裁政治によって成り立っていたこと、②そのような不平等な社会システムによって一般市民が抑圧され、政府に対して不満を募らせていったこと、③そうした市民の不満に乗じて、キューバやソ連の支援を受けた左翼ゲリラが体制転換を企て、暴動を起こすに至ったこと、④アメリカが、隣国ニカラグアでの左翼政権の誕生に伴い、エルサルバドルで共産主義が広がることを懸念し、右派政権への軍事的な支援を行ったこと、⑤政権側も、共産主義の広がりにより、これまで自分たちが築き上げてきた利益と確保している特権が奪われることを恐れ、反体制運動を徹底的に弾圧し、結果的に内戦が泥沼化していったこと、を一連の歴史の流れの中で理解するに至った。

生徒の感想(一部を抜粋)

☆右翼と左翼がそれぞれ自分たちの思いを通すために、無差別的に殺し合っているシーンはショックだった。アメリカのように、自分の国のプラスのために、他国でマイナスの状況を生み出していることがあってはならない。エルサルバドル人が他人を信用できないこと、治安が悪いことの原因が分かった。
★この映画を見て、人の欲って怖いなと思った。豪華に暮らしている人がいる一方で、身分証がないだけで殺されてしまう人がいるなんてむごかった。こんな内戦が最近まであったかと思うと、何とも言えない気持ちになった。人の命が簡単に亡くなっていたということに心が痛んだ。

12~14 時間目:【エルサルバドルが抱える諸課題と解決策】→グループ学習

まずは、グループごとにそれぞれ異なる2枚の写真を配布し、その読み取りを通じて、エルサルバドル社会の抱える課題(「治安の悪さ」「失業問題」「自然災害」「教育環境の未整備」「国民としてのアイデンティティ喪失」「貧富の格差」「ゴミ処理と環境問題」)について気づいていった。次に、Web Mapの作成を通じて、諸課題間の因果関係を見出していった。最後に、エルサルバドル社会の抱える課題を踏まえ、解決へ向けての手立てについて考え、結論を出していった。授業の様子は以下の写真の通り。



生徒の感想(一部を抜粋)

☆Web Map からいろいろとつながり、どういものが関わっているのかが見えてきた。また、問題点を探し、解決案を模索することによって、具体的な問題点などを見つけることができた。
★「アイデンティティの喪失」から経済問題や人口問題に発展した。アメリカに出稼ぎに行ってしまうと、愛国心も薄れ、いつまで経っても自国の改善には至らないのかなと思った。

15 時間目:【課題解決へ向けての取り組み】→個別学習

エルサルバドルの抱える課題を解決するために、現地で草の根的な活動を行う青年海外協力隊及びシニアボランティアに所属する日本人の具体的な取り組みをビデオと新聞記事で取り上げた。ここでは、日本から遠く離れた国で奮闘している協力隊員の姿や、彼ら彼女らの生き方の一端に触れることで、今後の自分自身の人生について考えていくためきっかけづくりとして授業を位置づけた。

生徒の感想(一部を抜粋)

☆現地でボランティアとして活躍している人々の名前の声を聴いて、紙面上で読むよりも現地の状況が具体的にわかった。自分も将来何かしらこのような形で支援していく手段はないかと考えさせられた。
★私はビデオに出てきた人たちのような勇気や決断力がないので、この人たちはすごいと思う。エルサルバドルで皆のために働いているなんてすごい。私も誰かのためになることをしてみたい。
☆海外でのボランティアを経て、価値観が変わる人は多いというけれど、本当にそうだったと思った。ボランティアには興味があるので、大学生になったら取り組んでみたい。

16~18 時間目:【今後の国づくりを考える】→グループ学習

下の写真に示すように、各グループが提案した課題解決策を踏まえ、グループごとに今後の国づくりのあり方について議論し、具体案を発表した。具体的な進め方として、各チームに割り当てられた課題を確認し、それを踏まえ、今後の国づくりを進めていくのに必要とされるキーワードを3つ設定し、それに基づいたエルサルバドルの将来像についての具体的なビジョンを図や絵に表わしていった。



生徒の感想(一部を抜粋)

☆エルサルバドルの抱えている問題点の改善方法を考えたり、将来どのようにするのが良いのかを考えたりすることによって、エルサルバドルという国の問題点が大きく浮き彫りになったと思う。
★エルサルバドルの「防災」について、高校生という目線から議論をしていろいろな案が出たので、国家レベル、世界レベルで詰めていけば、良くなる部分はたくさんあると思う。今まで名前すら聞いたことのない国について学び、最後には将来のビジョンを考えることができておもしろかった。

19 時間目：【エルサルバドルと私たちとの今後の関係】→個別学習

エルサルバドルと私たちとの今後の望ましい関係について、自己の見解をワークシートにまとめさせるとともに、それを全体に共有するために数人を指名して発表させ、授業全体を振り返った。

生徒の感想(一部を抜粋)

☆エルサルバドルのことを全然知らず、誤った認識や偏見があったけど、今回の授業でそれが少しなくなった。もっとこのような授業をやって、日本人が持つ誤った認識や偏見がなくなれば良いと思う。世界には様々な国があり、その国々にはそれぞれ異なった文化がある。そういったものをお互いに尊重し、大切にしていっての方が良いと思う。

★「中米の遠い国であるが、自分とは無関係な国とは思ってはならない」。このことを第一に思いました。災害が多いことをはじめとして、意外と日本との共通点があり、日本は先進国として様々な面で支援する必要があると考えた。直接現地へ行って活動することは出来ないにしても、まずはエルサルバドルに興味・関心を持つことが大切であると思う。

☆日本とエルサルバドルは友好的関係を築けているので、このままお互い思い合えるようにしていきたい。利害はもちろん重要だが、助けられる部分は惜しまず、逆もまた然りで、お金だけにとらわれない関係が望ましい。

【5】児童・生徒の反応/変化

毎時間の生徒たちの感想からは、エルサルバドルと日本との関係の深さに気づくとともに、同国に対する一面的理解から多面的理解へと変化していることが読み取れる。また、同国の抱える諸課題を相互に関連づけてとらえ、同じ地球に暮らす市民としての当事者意識を持ちながら、地域の現状を踏まえた解決策や将来像の提案を試みる様子を伺うことができた。さらには、青年海外協力隊の現地での活動から、自分自身の今後の生き方・あり方について考えていこうとする意欲を伺うことができた。

【6】授業実践の成果と課題

筆者は、「生徒自らが学習活動を通じ社会で起こる様々な問題と自身とのつながりについて気づくとともに、そこから自分の価値観や生き方を確立し、市民として社会参加のきっかけをつかむ」ことを念頭に日々の授業に臨んでいる。今回もそうした意図の下で授業を行ったが、生徒たちはこちらの願いに応え、意欲的に授業に取り組むとともに、エルサルバドルはむろんのこと、世界と自分とのつながりを意識した態度を見せるようになった。

今後の課題として、世界へと見開いている生徒たちの意識を参加・行動へとどのように結びつけていくのかである。彼ら彼女らの社会参加へ向けて、ささやかながらも何らかの支援ができればと考える。

【7】参考文献(引用文献・参考資料)

- ・『ヘスースとフランシスコ―エルサルバドル内戦を生きぬいて―』 長倉洋海、福音館書店、2003年
- ・『オスカル・ロメロ―エルサルバドルの殉教者―』 マリー・デニス、レニー・ゴールデン、スコット・ライト 著、多ヶ谷有子訳、聖公会出版、2005年
- ・『エルサルバドルを知るための55章』 細野昭雄・田中高編、明石書店、2010年
- ・『移行期の正義とラテンアメリカの教訓―真実と正義の政治学―』 杉山知子、北樹出版、2011年
- ・『データブック・オブ・ザ・ワールド 2012年版』 二宮書店編集部編、二宮書店、2012年
- ・『政府開発援助(ODA)国別データブック 2011年度版』 外務省編、外務省、2012年
- ・『埼玉新聞』 2012年8月26日朝刊「人とのつながり伝えたい―県内教師エルサルバドル視察―」
- ・『埼玉新聞』 2012年9月6日、7日、8日、9日、11日朝刊「埼玉発未来への懸け橋―JICAボランティア in エルサルバドル―」

【8】使用教材(写真/図などの実物)

[4]で示した授業実践の写真、[7]で示した文献を参照されたい。

【9】教師海外研修を終えて(感想・今後の展望)

「世界の現状を生徒たちに生き生きと語っていくには、教師自身の現地での体験が欠かせない」。授業実践を終えて改めてそのことを実感した。今回のエルサルバドルでの研修を通じて、多くの「生きた教材」を収集することができ、それによって生徒たちの世界認識を深めることができたと思う。

本実践では、一つの国を長時間に渡って取り上げたが、それを可能にした理由は、授業対象クラスが系列大学への内部進学希望者で占められており、担当者の裁量を生かした授業づくりがしやすかったことによる。もちろん、この国を取り上げるに際し、生徒たちの人間形成にいかなる意義があるのかを明確にした上で単元構成を行ったことはいうまでもない。本実践をきっかけに、異文化理解と現代的諸課題を軸にした世界地誌授業のモデルの構築へ向けて、ささやかながらも貢献できたと考える。